研修レポート

平成28年度まちづくりゼミナール

地域をつなぐ ～地域の資源は地域の連携・協働にある!! ～

社会福祉ボランティア大学校では、「平成28年度まちづくりゼミナール」を開催しています。

今年度は、「地域をつなぐ」をテーマに、校（地）区社協や企業･NPO法人の方々から、地域と連携･協働している事業の事例を紹介いただき、これからの地域の連携や地域とのつながりの必要性について、参加者と考える研修を行っています。

ゼミナールのコーディネーター役
社会福祉ボランティア大学校
校長　山﨑克明

日　時：8/18～12/15 の全5回
会　場：ウェルとばた 12 階 H・I 研修室
実　施：北九州市社協・北九州市
受講料：無料
対象者：校 (地) 区社協・地区民児協・まち協役員等

●第1日目 (8/18) 地域のつながりの大切さ

事例発表者 若松区藤ノ木校区社協　ボランティア団体
ユーカリの会　副会長　**井上　千惠美さん**

コーディネーター役の山﨑校長より「協働による地域づくりを目指して」と題し、地縁団体の必要性や地域の様々な団体･企業･行政等と力を合わせ、協働による地域づくりの理想を学びました。その後の事例発表では、市民センターの建設をきっかけに、地域住民によるボランティア団体が設立され、高齢者サロンの運営をする事例を聞きました。サロンの運営や他団体との協働について、熱を帯びた討議が行われました。

●第2日目 (9/15) 地域の人に支えられたサロン活動

事例発表者 門司区古城校区社協　**浜崎　いつ子さん**
穴生市民センター館長　**峯　恭子さん**

2日目は、2つの校（地）区社会福祉協議会のサロン活動の事例発表がありました。地域とつながって様々な講師を発掘しているサロンや、特別支援学校とつながり、障害者にも参加しやすいサロン活動の事例について様々な質問や意見がありました。サロン活動を長く続ける為の工夫として、活動資金を参加者負担とし、参加者自身の活動への参画で、世話役への負担感が軽減することで、サロン活動への積極参加が促せるとの意見がありました。

●第3日目 (10/20) 地域と企業･団体のつながりから

事例発表者 株式会社　光タクシー
社　長　**石橋　孝三さん**
社会福祉法人　グリーンコープ
管理者　**水摩　静香さん**

企業･法人と地域との連携･協働の事例発表が行われました。一企業が地域の活性化にどう貢献する事ができるかを考えた、実践ケースをご紹介いただきました。また、法人の地域への社会貢献的な活動事例を発表していただき、地域と企業･団体がつながりと共に発展する協働の在り方について協議を行いました。

●第4日目 (11/10) 地域とつながる

事例発表者 NPO法人　抱樸 代表　**奥田　知志さん**
NPO法人　要会 代表　**江田　久美子さん**

NPO法人代表に団体と地域住民との共働活動の成果を紹介していただきます。生活困窮者に対する支援を行っている団体が、地域とどう関わっていくのか、また、障害者支援団体が、地域の協力を得て、地域の障害者理解が広まっているのか等の事例を聞き、地域にある団体と地域がいかにつながり、互いにどう成長するかについて協議します。

●第5日目 (12/15) 地域のつながりの強化とは 地域力の強化

講　　師 社会福祉ボランティア大学校
校　長　**山﨑　克明**

最終日は、総まとめとして、地域のさまざまな団体とのつながりが強化されることで、地域の力もアップすることを前4日間の事例から確認し、地域資源の再確認と他団体のつながり強化策を参加者と協議します。

北九州市社会福祉ボランティア大学校

北九州市社会福祉協議会 ボランティア･市民活動センター 研修課（ウェルとばた3F）
TEL881-6321/FAX881-6306　http://www.kitaq-shakyo.or.jp/vol
●時間: 9時～17時　●休み: 日･月曜日･祝日（月曜日が祝日の場合、翌日も休みです）

ひと＆ひと
HITO&hito

シリーズ福祉エッセイ「しあわせづくり、ひとづくり」⑯

「施設が求めるボランティア」について

地域密着型複合施設
サポートセンター本城
上田　直樹（かみだ　なおき）さん

●今ボランティアが求められている

国の人口推計では、総人口が減少する一方で 65 歳以上の方の割合が急激に増加すると示しています。北九州市の高齢化率は政令都市の中で最も高く、全国平均を上回っています。さらに要介護認定者も介護保険制度開始以降約 15 年で 2 倍以上になっています。

この高齢社会を支えるべく、国の施策として地域包括ケアシステムの構築があります。そこで、生活支援・介護予防においてボランティアの存在が明記され、「自助」「互助」としての役割に位置づけられています。他方で、支援者のひとりである介護職の数の問題があります。介護職は介護保険制度開始以降大幅に増加しています。しかし、2025 年度の充足率（見込）は、85% 程度で支援者が少ないことが予測されています。

以上から支援者のひとりとして、ボランティアは今、そして今後も求められています。

●施設でボランティア活動を行うにあたり必要なこと

さて、高齢者施設でボランティア活動を行うにあたり、必要なことのひとつに認知症への理解があります。

認知症は“思い出せない”や“場所や時間が分からない”といった症状の集まりで、アルツハイマー病等が原因となる “病気” があります。私たちが風邪をひき熱が出るのと同じことです。熱が出れば不安にもなります。認知症の方も同じです。治りにくい病気・認知症という症状を抱え、その時・毎日が不安なのです。

認知症の方への関わり方のポイントは、次のことです。“認知症の方の言動はそうでない人達にとっては、不可解に思えます。言動には理由があり、なぜそのような行動をするのかを紐解いていく事” が重要です。

紐解くにあたり、ボランティアの柱である “自発性” “社会性” “無償性” “先駆性” は非常に重要です。

●施設とボランティア

利用者さんは様々な側面（かお）があります。私たちも同じように TPO に合わせて様々なかおを持っています。利用者さんの日々の支援を行う上で、施設職員と一緒の時の “かお”、ボランティアの方に見せる “かお”、その様々な“かお”が利用者さんの“素がお”です。その“素がお” を共有して初めて、利用者さんの “本当の” 素顔を知る事ができます。これからは今まで以上に同じ支援者である施設職員とボランティアとのコミュニケーション（情報共有）が重要になります。

研修生募集

ボランティア・リーダー研修を開催します

ボランティアリーダーのメンタルケア…楽しさとやる気の心理学

「ボランティア･リーダー研修」は、グループの運営のあり方やリーダーとしての役割を学ぶことで、ボランティアリーダーとしての資質向上と次期リーダーの育成について考える研修です。

開催日程	平成28年12月3日（土）　10:00～16:00
対　象	ボランティアグループのリーダー･次期リーダー等30名
講　師	北九州市立大学　名誉教授　臨床心理士　中島　俊介 氏
開催会場	ウェルとばた　12階H･I研修室
受 講 費	700円
申込方法	受講申込書に必要事項記入の上、FAXまたは郵便でボランティア大学校までお送りください。また、お電話での申込も受付します。受付締切:平成28年11月19日（土）